
ネットカフェ・in・サバイバル2

刺身ハンター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネットカフェ・in・サバイバル2

【Nコード】

N9723W

【作者名】

刺身ハンター

【あらすじ】

好きな女の子に告白したら、返事は……。前作、ネットカフェ・in・サバイバルの続編です。

「あなたの自慢できるところを教えてください。」

「アダムを倒して、世界を救った救世主になった事です。」

「……………?」

今は九月下旬。そう！就職試験の真つ最中なのだゝえ？進学しないのかって？しないよ。俺、勉強嫌いだもん。

……なんか、面接官が何言ってんだコイツ？みたいな表情で俺を見ってくる。嘘はついてないんだケドな。

「じゃあ、あなたの好きな物を教えて下さい。」

好きな物？決まってるだろ！フツ……愚問だぜ。

「ジブリと天宮です！」

「あ……まみや？」

は？天宮は天宮だろ？頭悪いなコイツ。

「どんなところが好きですか？」

「じゃあ、逆に聞きますけど、貴方はジブリを見て感動しませんか？するでしょ？天宮に関しては全部！」

「わかりました、質問は以上です。」

「失礼しました!」

……完璧だぜ! 100%受かったな。

ネットカフェ・in・サバイバル2

STAGE 1

START!!

〔EARTH・FANTASY、地下会議室〕

「……このステータスは、異常じゃないかね?」

「本来、ニートは最弱職業のはずだろう?」

「あのアダムのステータスを、瞬間的とはいえ、遥かに超えている……。」

「ドクター谷川、このプレイヤーは君の息子だと聞いたが……?」

「ふふふ……、もう十年以上会ってませんが、確かに私の股から出てきた息子ですね。」

……かわいい大和ちゃんが、こんなに大きくなってるなんて。……
ふふふ、あの馬鹿男にそっくりな容姿がム力つくわね。」

「アダムを倒す程の力だぞ！？これは危険じゃないかね？」

「危険でしょうね。私の息子は、世界を牛耳る力を備えている訳ですから……。」

ウッセーな糞ジジイ共が！こんな退屈な会議に意味はない。ひひひ……、全て計画通り！さあ大和ちゃん、私のためにどんどん強くなりなさい！私のために……。」

ガーッ……。とかマヌケな音を出して、自動ドアが開く。ふうっ、やっと窮屈な試験が終わったぜ。さーって、俺のマイハニーに電話しよう。

（前作・最終話）

「好きです。付き合ってください！」

「えっ！？……………うん。よろしくね谷川君。」

しゃああああああ！いやったー！ヒヤッホー！

……と、いう訳で、天宮は俺の彼女になりましたー！

「もしもし？結衣？」

「あつ、試験どうだった？」

電話から、まるで天使のようなボイスが聞こえてくる。言わずと知れた、天宮です。

「完璧だぜ！100%受かったな。」

「じゃあ、もし落ちたら、ジブリのDVD全部私が貰うから。」

「落ちねーからそれは無いな。」

「アハハハハ、冗談だよ。」

「試験終わったし、俺ン家で遊ぼうぜ。」

「いいよ。後で大和の家に行くね。」

……彼女って、イイね！毎日が輝いてます。幸せって、こつこつ事なんだな。

「嫌だ、お母さん！行かないで！」

「お父さんがいるでしょ？これから、お父さんと二人で暮らすのよ？」

「嫌だ！お母さんも一緒に……」

「……いずれ、必ず会えるわよ。……必然的にね。じゃあね」

「お母さん！……うわ……ん。」

ピンポン！

はっ！？やべえ。寝てた。

……嫌な夢だな。昔の事を思い出した。

……インターホン？多分、天宮だな。

「……はい。今行くよつと。」

ゆっくりと玄関のドアを開けると、マイハニーが笑顔でそこに立っていた。うん……、かわいい。

「来たよ」

「あー…、とりあえず上がってくれ。」

天宮を家に招き入れる。天宮が家に居るとか、色んな意味で興奮してきた。そもそも、女の子が俺の家に遊びに来るなんて初めてな訳で……。

「谷川君の家、初めて来たけど…、誰もいないの？」

「ん？言ってなかったっけ？俺、一人暮らしだよ。」

「ええ！？高校生で一人暮らし！？スゴイ！お父さんとお母さんは何をしてるの？」

「両親は俺が五歳の時に離婚して、父さんは俺が六歳の時に、自殺した。」

「……え？なんか、ごめん。聞いちゃいけなかったよね…。」

「ん？いや、別に気にしてないよ。大丈夫。」

両親の事なんか、……どうでもいいんだ。だって、天宮が家にいるんだぜ！？これはもう、テンション上げていかなきゃ」

「そのソファーに座ってて。なんか飲み物取ってくるから。」

「あつ、ありがとう。」

さして、何がいいかな？お酒イッチャう？いや、まだ早いな…。

ここでのチョイスはカルピスだ！

「お待たせ〜♪」

カルピスをテーブルの上に置いて、天宮に飲むように奨める。天宮はカルピスを飲みながら、キヨロキヨロと室内を見回している。ふつつつつつ…、そんなに辺りを見回しても、怪しい物…エロい本や大人の玩具は出てこないぜ？何たって金庫に隠したから、見つかるはずがない！

「……本棚大きいね。あそこに、Hな本とか隠してるの？」

ホラ来た！ふふふ…、あそこには、ジブリ関連秘蔵の書物と、ジブリのDVDしか置いてないぜ。

「隠してねーし。つか、エロ本自体持ってねーよ。」

「へー！じゃあ、あそこの本棚漁っていい？」

「どうぞ〜。」

ふふふ…、好きなだけ漁るがいい！天宮が本棚に向かって進み始めた…。……………四つん這いで！

イイよ！なんか、イイね天宮！そんな事してると、リアル滅亡ニートで、獣に変身して後ろから襲っちゃうぞ……………ただ、残念なのが制服のスカートの下に、ジャージを着てるから、エロさが半減されちゃうんだよね。

「あ！これは…」

ん？何か見つけたのか？やべえ、隠し忘れか！？

「中学の卒アル！ねえ、見ていい？」

……なんだ卒アルか。ビビって損した。

「ん？ああ……、別に見てもいいけど……。つか、結衣飯まだだろ？作ってる間、見てくれ……。」

「え？いいの？……谷川君って、意外と家庭的ね。」

「意外とは余計だ。」

天宮が上機嫌で卒アルをめくり始めたので、その間に晩御飯を作ろう！谷川大和の15分クッキング！の時間だよ。」

「谷川大和の鶏モモ肉焼き」

……なんだこのコーナー。めちゃくちゃ家庭的なコーナーだな。

まあ、なんでもいいや。

まず、鶏肉を用意する！

焼く！

完成！

……え？レシピ省きすぎ？じゃあ、醤油・調理酒・味醂を適当に混ぜて、タレを作る！そこに大根おろしを入れたり、林檎をすったりしたら、より一層美味しいぞ！鶏肉はある程度火が通ったら、今のタレをぶっかけて絡める！仕上げにブラックペッパーを入れると、味がしまってイイ感じになるな……。これで、ご飯が進む事間違いない！

……なんだコレ？シリーズ初の試みだな。ここだけの話、作者が初めて作った、思い出の料理らしいぞ。

「おい、出来たぞ。運ぶの手伝ってくれよ。」

「アハハハハハハ！ヒー、ヒー…。」

……なんだ？天宮が死ぬ程爆笑している…。一体何を見てるんだ？

「おい、どうしたんだよ？」

「愛すべきジブリ同好会・会長、谷川大和君！アハハハハハ！このページに、将来の夢は風の谷に行く！って、アハハハハハ！」

……あー、中学の黒歴史が暴かれてしまった。なんか、恥ずかしい♪

〈谷川大和〉

HP 20 / 20

将来の夢は風の谷に行く！恥ずかしさアップ！

テンションダウン！

「谷川君って、いつからジブリが好きなの？」

「あー…、五歳くらいの時から、毎日見てたんだ。」

「へえー、五歳から毎日かあ。」

……そう、あの頃は、ジブリだけが毎日の楽しみだった。ジブリだけが……。

「……谷川君？どうしたの？そんな悲しそうな顔して…。」

……駄目だ、あの頃を思い出すと、どうしてもテンションが上がらない。…沈んだ気分になってしまう。

「…ねえ、谷川君？何があつたの？変だよ…。」

「……結衣。いや、なんでもないんだ！さあ、飯食べようぜ。冷めちゃうよ？」

「……私に言えない事なの？私には言いたくないの？」

違う。話してしまえば、絶対に泣いてしまう。そして、辛くなる…。あの出来事は、俺にとって最大の精神的障害だから…。

「お願い、そんな顔しないで！そんな谷川君見たくない…。私に出来る事なら、なんでもするよ？力になりたいの…。谷川君を支えた…！」

……天宮。

「……自分の全てを話すのは、結衣が初めてかもしれない。聞いてくれるか？」

「……うん、聞かせて。何があつたの？」

「……15年前になるかな。俺が三歳の時か……。まだ、両親が離婚する前だった。母さんはどこかの研究所の博士で、仕事一筋の人間だったよ……。父さんは、なんて言うか……専業主婦……。じゃねーや。専業夫だな。父さん仕事してなかったんだよ。母さんの給料で充分食っていけたからな。」

「……専業夫？」

「ああ、専業夫なんて聞こえはいいけど、実際はニートだ。仕事してねー訳だし。普通の家庭と逆だろ？そんな父さんに、母さんは愛想つかせて浮気。父さんは浮気の実事を知りながらも、何も言わなかった……。わかってたんだよ。自分の弱さ……立場を。けど、父さんはよく遊んでくれたし、可愛がつてくれたから、嫌いじゃなかったんだ。」

「……。」

「まあ、普通じゃないナリに幸せだったよ。少なくとも俺は。そんなある日、両親は突然離婚したんだ。父さんは訳を言わなかったけど、母さんが浮気相手と結婚するために、離婚したんだと思う。俺は父さん側に引き取られた……。と、言うよりは押し付けられたって感じだったな。」

「……………」

「それで、父さんと二人暮らしが始まったんだ。運よく仕事も見つかった…、最初の頃は大変だったけど、それなりに楽しかった。父さんが仕事に行ってる間は、退屈だからさ、それで父さんがジブリのビデオを買ってくれたんだ。んで、毎日ジブリを見てたんだ。幼いながらに感動したよ。ジブリの凄さに…。そんなある日、気付いたんだよ。父さんの様子が、日を重ねる毎におかしくなっている事を。今考えてみれば、当然だよな。今まで働いた事が無い父さんが、いきなり働きながら子育てだぜ？過労とストレスの板挟みで、ノイローゼ。」

「……………ノイローゼって。」

「それで、遂に起こってしまったんだ。最悪の出来事が…。」

「谷川大和、6歳」

「ただいま……………」

「あつ、お父さん！おかえりな……………」

……………なつ、なに？お父さんの様子が、変だ……。なんて言うか、恐いし……不気味！

「へっ……、へへへ。お父さんな、今日で会社クビになっちゃったんだ……。」

「え？クビ？クビって、なに？お父さん……。」

「ひへへ……、もうお前なんか死ね！っていう、死刑宣言みたいなモノさ……。」

……ぶつぶつ言いながら、お父さんは台所の方向に向かって歩いて行く。こわい、こわいよ……。

「……………！！！」

驚き過ぎて、声が出ない。お父さんは……包丁を持って、突然暴れ狂った。

「ギャハハハハ！会社もクビになって、俺のガキまで馬鹿にしかる！もう終わりだ！妻には逃げられるし、会社はクビになるし、もう死ねって事だよな？」

目玉は充血して真っ赤になって、ヨダレを垂らしながら暴れ狂うお父さん！家具という家具を破壊して、もはや正常ではなかった。

「ハアーツ、ハアーツ、ハアーツ……。……。大和、こっちにおいて。お父さんが抱っこしてあげる。」

嫌だ……。怖い！嫌だ！！

「……。なんだ？来ないのか？」

「……。お父さん、どうしちゃったの？」

「……。見ればわかるだろ糞ガキがあああああああ！！！」

えっ！？お父さん、その包丁で僕を刺すつもりじゃ……。。

……。ドスッ！

「あああああああああああああああああああああ！いつ、あつ……。ぐうつ……。。」

痛い！刺された！血が……。脇腹から血が大量に！嫌だ……。死にたくない。助けて……。助けてお父さん！

「……。！！！？？」

信じたくなかった。お父さんは首に包丁を自分で刺し、大量の血を口から吐き出した。

「ごぶつう……クビに因んで……グフツ、……首に刺してみまし……た。」

そのまま、糸が切れた操り人形のように、お父さんは力無く崩れ落ち、僕の上に倒れ込んできた。家の中は血の海。まさに、惨劇と呼ぶに相応しい光景だった…。

「うっ、ヒック、何だよこれ…。うつうつ…誰か。誰か…。嫌だ…助けて。誰か…助けてええええええええええ！！！」

「ゴッブウ……!!」

びちや びちや びちや びちや びちや びちや びちや
……。

降り注ぐ父親の血液！自分の上にいるお父さんを退かそうにも、僕の力じゃ動かせない……。それに、動くと刺された傷が凄く痛くて、どうする事もできなかった。

[illegible]

「……………そんな、酷い事が？」

「ああ、あの後近所のおばさんが、見つけてくれてな。即、病院に運ばれて、命だけは助かった。」

「……………お父さんは、どうなったの？」

「病院で死んだ。その後、退院した俺は、親戚に引き取られたけど、なんか居心地が悪くてな……。無理言って、高一の時から一人暮らしをさせてもらったんだ。」

「……………谷川君。」

「……………今でも、あの時……の、父さんは……恐ろしく感じるよ。その恐怖を……ずっと、ジブリが埋めてくれた……。」

「……………元気出して！って言いたいところだけど、無理だよね……。……よし！」

何が、よし！なんだ……？

「今度から、私がジブリの替わりになるわ！何たって、谷川君の彼女だもの。辛い事や、悲しい事を、一緒に乗り越えよ？」

……………温かい、なによりも温かい涙が、頬を流れた。この涙は……、過去の辛い思い出のせいじゃない。自分の事を、こんなにも想ってくれている人がいるんだ！という、うれしさと、感謝の涙……。

「あつ、谷川君……？大丈夫！？」

「だ……大丈夫……、大丈夫だよ……。ありがとう、結衣。」

「谷川君……。」

天宮となら……大丈夫。二人でなら、乗り越えられる……。どんな事があっても！ありがとう、ありがとう……。そして、よろしく願います……。

「さあ、飯にしようぜ。せっかく作ったのに、冷めちまうよ。」

「そうだね、食べようか。」

その日食べた夕飯は、いつもより……、しょっぱい味がした。

（EARTH・FANTASY第6研究室）

「御呼びでしょうか？ドクター谷川。」

助手の丹蛭陀^{にひるだ}を、研究室に呼び出した。何故なら、とっても大事な研究を行うため、彼に協力してもらわなければ。

「ねえ、例のアレと私の大和ちゃんって、どっちが強いかしら？」

「暴虐魔獣・ディノガラウと、アダムを倒し者ですか…。当然、倒し者でしょう。EARTH・PERIODが開放されたら、彼にぶつけるつもりで?」

「ええ、そう考えてるけど?」

「まあ、普通に闘えば勝ち目は無いでしょう。普通に闘えば、の話ですけどね。」

「あの計画のためには、少しでもデータが欲しいの。ディノガラウのLVをMAXまで底上げして。」

「わかりした。」

大和ちゃん、あなたの全てが欲しいわ…。あなたの全てが!あなたの力が!!

「ごちそうさまっ！あー、美味しかった♪谷川君の料理が美味し過ぎて、びっくりしちゃった。」

満足そうな顔で、夕飯を平らげた天宮。今夜の料理は、上手く出来た方だろう。

「ああ、我ながら美味かった。」

「なんかお腹いっぱい…。」

「結構ボリュームあるから…。どうする？酒でも飲む？」

「あつ、未成年なのに、いけないんだ…。」

「ちょっとだけだよ。ジブリ見ながら飲もうぜ。」

「チューハイ一本くらいなら、許してあげる♪」

なんだかんだで、天宮も結構ノリ気だな…。氷結辺りでもイツとか。

注意！

未成年の飲酒は禁止！

……でも、飲みたい時もあるよね。

飲酒運転も禁止！

代行を頼みましょう♪

「カンパイ♪」

酒盛りが始まった…。ジブリは、耳をすませば。を、再生しながら、天宮と二人で酒を飲む。嗚呼…。マジ最高！マジ幸せ…。

～2時間後～

「雫！結婚しよう！」

飲み過ぎました♪チューハイ四本に、ビール二本。さらに、秘蔵の日本酒をラッパ飲み…。もう、ベロンベロンです…。天宮も似たような状態になっている。まあ、当然か…。

「ああ…。歩けない。帰れないよ…。たーにかゝわ君！今日はとめて♪」

天宮がベロンベロンになりながら、話しかけてくる。泊める？全然オッケーさ！

「フニヤフニヤ…」

「おいおい！結衣！？」

天宮が、俺にもたれ掛かるように抱き着いてきた。酔っ払い過ぎじゃね？

「……………抱いて。」

「はっ？」

んんんんん！！？？？

今、何て言った？

「酔った勢いで、言ったんだからね……。普段なら、恥ずかしくてこんな事言えないよ……。」

マジですかい！？今夜で俺は、童貞卒業ですか！？

「えっ？いきなりだな。」

「……………いや、なの？」

……………上目づかいで、俺をまっすぐに見つめてくる天宮！可愛い過ぎるっ！しかも、しかもっ！制服がちよっとはだけで、なんかイイ感じでエロいよ？ヤベー！いろんな意味でヤベーよ！あっ！？天宮が、ボタンをゆっくり外し始めた！制服を脱ぎ始めて、胸が！……………襲っていいカナ？天宮の顔が、真っ赤だ。気分が高揚しているのか、酔っ払っているのか、緊張しているかのどれかだろう。……………完全に下着姿になってしまった天宮。

「……………！！！」

傷だらけの体。常識では考えられない、傷の数々が、天宮の体に痛々しくついていた……。EARTH・PERIODの影響だろう。あまりにも痛々しく、直視できない。つい、顔を背けると、天宮が消えそうな声で呟く。

「……………やっぱり、傷モノの女は、……………いやなの？」

ああ……、今わかった。デートの時や、普段制服の下にジャージを着ていたのは、身体についた傷を隠すためだったのか……。こんなにも

……こんなにも！……その純粹さが、ひどく可愛く見えた。

「……たにかッー！」

勢いよく天宮に抱き着いて、唇を重ね合わせる。そのままソファーに押し倒し、下着をゆつくりと外す。

「……傷だろうが、なんだろうが、結衣は結衣だ。好きだ、愛してる……。」

さようなら、童貞！

男、谷川大和逝きまーす！

（谷川大和）

HP 20 / 20

合体！

ハッスルハッスル！

童貞を卒業した！

翌日、EARTH・PERIODが復旧。新たなニート伝説が、始まる……。 （かもしれない。）

「翌日の朝」

「……………んっ。」

……俺の横で、天宮がかわいらしく寝返りをうつっている。さすが、マイハニー！可愛い過ぎ！

「……………あ？メール？なんだろう？」

携帯に、受信メールあり！なんだこのアドレス？しらねーアドだな。とりあえず開いてみるか…。

「お知らせ」

本日より、EARTH・PERIODが復旧いたしました。それと同時に、大規模なアップデートを行いました。新しいEARTH・PERIODの世界をご覧ください。

……マジで！？つか、アダムを倒したんだから、もうゲーム世界で闘う必要なくなっけ？……………ん？自分のステータスが、確認できるのか。どれ、ポチッとな。

「そらとぶユパ様」

LV 12000000

HP 60000000 / 60000000

称号 アダムを倒し勇者

職業 皇帝ニート

武器 聖天自堕落巨神剣

防具 青き血で染まった衣

能力 ニート・THE・END

プレイヤーRANK 2580位

戦績 0勝0敗0引き分け

……なんか、懐かしいな。あれから半年以上経つのか……。……天宮が起きたら、爆遊会館に行くかな。

………んんん！？ちよつと待て！戦績が0勝0敗0引き分け！？なんでリセットされてる訳？

「……あつ、おはよう。………どうしたの？携帯なんか見つめて………」

あ、天宮が起きた。俺は、天宮に携帯を差し出し、外出の準備を始める。

「えーこれって………」

「支度しろ。爆遊会館に行くぞ！」

「あ、私の携帯にもメールが。」

（AMAMIYA）

LV 208763514209

HP 390541238712 / 390541238712

職業 女神

武器 勝利の神弓・バ

防具 女神の衣

能力 極楽殺弓

プレイヤーRANK 1位

戦績 0勝0敗0引き分け

…… やっぱり、ランク1位の天宮は、とんでもないステータスだ。
勝てる奴なんか、絶対にいないだろ…。

…… と、いう訳で早速天宮と爆遊会館にGO！GO！だぜ。

（ネットカフェ・爆遊会館）

「…… なにこの行列？」

そうなのだ！爆遊会館に行っただいいが、凄まじい行列が出来てる
んですけど…。マジなんだよコレ？

「多分、総理の会見のせいで、一般人もEARTH・PERIOD
の存在を知っちゃったんだね。（前作42話）」

あー…、そういえば、あのオッサンは総理大臣だったんだっけ？そ
うかー…、あのオッサンのせいで、こんな行列が…。総理の馬鹿野
郎ー！！

「どうする？列ぶ？」

「私は列ぶよ。谷川君は？」

「ん…、今日は普通のカフェに行く。」

「え？」

「一般人がEARTH・PERIODの存在を知ったんなら、ネッ
トなんかで話題になってるはずだからな。まっ、簡単に言えば、情
報収集つてところか…。」

「ふーん…、わかったわ。私は、EARTH・PERIODにINするからね。谷川君なら、意味わかるよね？」

多分、天宮の言葉の意味は、長時間プレイするから、待ちくたびれたら先に帰ってくれ。と、言う意味だろう。約半年ぶりのEARTH・PERIODだ。気持ちは、わからなくもない。そして、待つ事2時間30分。ようやく、店内のカウンターにたどり着いた、…けど、いつまでたっても、いつもの店員が姿を現さない。なんだ？忙しいのか？

チーン！チーン！チーンチーンチーン！！

…天宮が、カウンターに置いてある呼び鈴を凄まじい勢いで、連打している…。やめよう？恥ずかしいんだけど…。

「大橋進でてこーい！」

「……大橋？」

「店員の本名だよ。知らなかったの？」

店員の名前は、大橋進って言うのか…。

「すみません！お待たせしま…って、チャンピオンとアダムを倒し勇者！？これはこれは…、ようこそいらっしゃいました。」

「LV無制限・無差別区域！！」

「あつ、普通の3時間パック。ネット席で。」

「わかりました。チャンピオンはこちらに……。倒し勇者は……。って、えええ！？EARTH・PERIODをプレイしないのですか？」

なんで驚くんだろう？

「うん、しないよ。早く案内してくれ。」

ぶっちゃけ、EARTH・PERIODの世界はおっかないしな。アダムも倒したし、プレイする意味もあんまり……。正直、プレイ意欲が湧かない……。EARTH・PERIODが復旧したのは嬉しいけど、今日はゆっくり、普通のネットカフェで過ごそう……。

（谷川大和）

HP 20 / 20

やる気 0

テンションダウン！

「そらとぶユパ様」

V S

「@・ネオ・β」

「ふん、ニートが調子コきやがって。秒殺してやる！」

「……………ん？なんでいきなり、こんな事になってるかって？それは、さかのぼる事数時間前……………」

「3時間前」

店員に、狭く仕切られた17番のネット席に案内される。

「では、ごゆっくり。」

少し窮屈で、目の前にあるものは、パソコンのみ。さーて、お言葉通り、ゆっくりしますか！

ドリンクを補給して、いざ戦闘？開始！

とりあえず、EARTH・PERIODで検索してみる。

「お？けっこう出るな。ん？EARTH・PERIOD攻略サイト？どれ…」

マウスのカーソルを、攻略サイトに合わせてクリックすると、黒いデカデカとしたEARTH・PERIODの文字に、小洒落たキラ

キラが背景のサイトがでてきた。

ほえゝゝ、手が込んでるなゝ。あん？オススメ職業一覧？えい、ポチツとな。

ゝ管理人厳選、オススメ職業一覧ゝ

・竜騎士

最初から竜のペットが使役できるため、LVが低い内はかなり強い。

・天使

始めから身体能力、天使の翼が使える。空中戦ができるため、便利。

・ギャンブラー

LVUP時、サイコロが出現。出た目×経験値×LVで、一気に何倍ものLVUPが可能。そのため、ステータスは低め。

……いろんな職業があるんだなゝ。

………んん！？なんだこれは！！！

ゝ管理人厳選、絶対に選んではいけない、最弱職業ゝ

・ニート

初期HPが2しかない。能力の滅亡ニートも意味不明。報告によると、好きな物はなんですか？と聞かれ、ハンバーガーと答えたら、目の前にハンバーガーが出現した。ステータスも全職業最弱！

・ひま人

能力が使えない外れ職業。

・廃人

ステータスが桁外れに高い。が、HPが0。戦闘開始とともに敗北する。

ニートが最弱！？馬鹿な…。あんなに強いのに？納得いかねーな！……ん？ペットを飼う方法？ユパ竜って、どうやって従えたんだっけ？

くペットの飼う方法く

・ノーダメージで、圧倒的な強さを強さを見せ付け、モンスターに完全勝利する。

・職業、○○使いで、種族に合ったモンスターを捕獲する。

例 獣使い↓獣系捕獲可能

成る程。確かに、ユパ竜と戦った時は、ノーダメージで勝ったな。巨神兵変化でぶっ飛ばした記憶が…。

あん？掲示板？どれ、覗くだけ覗いてみるか。えい、ポチツとな。

……そこで、とんでもないものを見てしまったんだよね。あんまり思い出したくない。むなくそ悪くなる。

く掲示板く

22・管理人

ニートとかカモだぜwww

ヨワスwww

10人とかどんだけwww

21・ニート乙さん

今日ニート10人倒した！

ニート雑魚www

20・管理人

初心者区域でニート狩り

ザマアザマアwww

EARTH・PERIOD名

@・ネオ・β

ニートかかって来い！

—————

19・ANNEX姐御

ニートは倒しやすいよ。

LV上げに最適wwwwww

HP2しかないしwwwwwwww

—————

なんじゃこりゃー！！！！なんでニートがボロカスに叩かれてる訳
！？自分の職業だけに、めっちゃム力つく！だいたい、アダムを倒
した職業もニートだぞ！

……………こいつらに、本当のニートの強さを教えてやる！！！！

〈谷川大和〉

HP 20 / 20

激昂！

テンションMAX！！

やる気100%！！

……………と、いう訳で、EARTH・PERIODにログインして、
攻略サイトの管理人、@・ネオ・βを捜し出し、勝負を挑んだ！

〈そらとぶユパ様〉

VS

〈@・ネオ・β〉

「あん？皇帝ニート？まあ、ニートはニートだろ。余裕だね。」

馬鹿にしたような表情でしゃべる@・ネオ・β！つか、キモいなコイツ。ボサボサの不清潔な長髪に、ジーンズにシャツをINしてやがる…。

「ニートは最強だ。それを今から見せてやる！」

① @・ネオ・β

LV 5804711

HP 105000 / 105000

職業 竜王

武器 竜槍・ゴゴゴ

防具 龍王峽・穂波

能力 竜から授かりし力

プレイヤー RANK 999位

戦績 1204勝54敗0引き分け

…… EARTH・PERIODが復旧して、まだ間もないのに、もう1200勝以上してるのか。かなりやり込んでるな。相当強いのか、ニートをカモにしてここまで来たかのどつちかだろう。まあ、どちらにしろ、プレイ時間は廃人の域に達しているに違いない。

「なんだお前？まだ0勝じゃんか！なのに、なんでLVがそんなに高いんだ？不正行為か？チートか？」

「……一つ、教えてやる。ニートは……最強の職業だ！」

「答えになつてねーんだよ！お前ムカつく！僕の攻撃で死んじゃえ！」

② そらとぶユパ様

@・ネオ・βの攻撃！

ドラゴン召喚！

ペット出現！

INFINITY・FLUSH

LV 100000

能力 潰滅の鎮魂歌

ペットとのタッグ攻撃！

@・ネオ・βが、ペットの竜を召喚して、カッコつけながら竜に跨がり、俺に突っ込んで来る。

……遅くね？アダムに比べれば、超動きが遅いんですけど。まるで、スローモーションだ。アダムなんか、文字通り瞬間移動してたからな……。この程度の相手なら、負ける気がしない。相手の竜が、阿保みたいに大口を開けて、俺に噛み付こうとしている。なんか、マヌケな竜だな……。

（そらとぶユパ様）

INFINITY・FLUSHの攻撃！

噛み付き！

MISS！！

そらとぶユパ様は回避した！

余裕で噛み付きを回避すると、まるで狙い澄ましたように、@・ネオ・βの斬撃が俺を襲う！

（そらとぶユパ様）

@・ネオ・βの攻撃！

竜槍・ゴゴゴ！

突き！

MISS！！

そらとぶユパ様は回避した！

さて、今度はこっちの番だ。一撃で仕留めてやる！

く@・ネオ・βく

そらとぶユパ様の攻撃！

滅亡ニート！

ジブリ世界！

巨神兵変化！

我が名はオーマ！

「……………は？」

ア然とした表情で、巨神兵になった俺を見上げる@・ネオ・β。まずは、ペットからやるか。将を射んと欲すれば、まず馬を射よ。だな。さーて、蹴り飛ばすかな。

くINFINITY・FLASHく

そらとぶユパ様の攻撃！

蹴り！

HIT！！

即死！

戦闘不能！

「うわあああゝ！」

ペットの竜が戦闘不能になったため、@・ネオ・βは丸裸。こんな事、ありえない！……………みたいな顔で、呆然と立ち尽くしている。なんだか、弱い者いじめをしているみたいで、虚しくなってきた…。……………やーめた。こんな奴倒しても、おもしろくない。

くそらとぶユパ様く

巨神兵変化解除！

元の状態に戻った！

「……………え？」

「やめた。お前みたいな雑魚倒しても、なんの意味もない。もう、二ト馬鹿にすんなよ。」

踵を返し、@・ネオ・βに背を向ける俺。なんか、一気に冷めちゃったな。

……ドスツ！

「がつ！？」

くそらとぶユパ様

@・ネオ・βの攻撃！

竜槍・ゴゴゴ！

ドラゴンスパイラル！

CRITICAL HIT！！

HP 60000000 / 20008513

なっ！？背後から、槍で刺された？やべえ…、見事に背中から胸にかけて、槍が貫通してやがる。こっ、この野郎…。前言撤回、倒さなければ、気がすまねえ。覚悟しやがれ！

「アハハハ。バーカ、お前なんか、負けてたまるか！降参なんか、一言も言っていないし！」

くそらとぶユパ様

ナウシカ鎮魂歌！

HP全回復！

覚醒！

能力発動！

二ト&END！

虐殺！

さて、今回初使用の虐殺。一体どうなるか、俺にもわからん…。

　　そらとぶユパ様

相手が死ぬまで、攻撃を加え続けます。HPが0になっても、肉体が滅びなければ、そのまま攻撃を続けます。ただし、現実世界にかかる付加は5倍となります一定時間、任意の行動は不可能です。

虐殺START！！

ルドウン竜の翼強制使用！

……タチ悪い能力だな。いろんな意味で、使用するのには控えよう。無理矢理体に刺さっている槍を引き抜き、暴走を開始する俺の肉体。虐殺は、アダム戦の時変化した、巨人の人間バージョンだな。体がいうことかねーし。引き抜いた槍を、真つ二つにへし折り、地面に投げ捨てる。体から血が噴き出しているのは、気にしない…。

　　@・ネオ・β

そらとぶユパ様の攻撃！

右ストレート！

HIT！！

HP 105000 / 5000

ルドウン竜の翼で、@・ネオ・βに接近して、右ストレートを放つ。拳が@・ネオ・βの頬にめり込み、ほのかな体温を感じた瞬間に、

@・ネオ・βが勢いよく吹っ飛んでいく。直ぐさま、吹っ飛んだ@・ネオ・βを追撃すべく、再び攻撃を仕掛ける。

①@・ネオ・β②

そらとぶユパ様の攻撃！

ルドウン竜の翼！

背後に回り込んだ！

捕縛！

@・ネオ・βの首を掴み、そのまま空に放り投げる。

放り投げる！

追撃！

聖天自墮落巨神剣！

自墮落の咆哮！

「めんどくさいな③！」

力任せにぶった切る！

H I T ！！

H P 0

戦闘不能！

W I N そらとぶユパ様

………なんか、虚しいな。無意味な闘いだった……。アダムも倒したし、闘う意味あるのか？あーあ……、EARTH・PERIOD引退か？どうしようか？

………なんて考えていたら、ヘッドスコープから警報が鳴り響く。なんだ？

①緊急事態発生②③

異常なモンスターが接近中！

データ該当無し！

複數體接近中！

は？ここは初心者区域だぞ？なんでモンスターが？開拓区域だけしか、モンスターは出現しないはず…。

ドスンッ！

……空からモンスターが降ってきた。なんなの一体？

暴虐魔獣・ディノガラウ

LV
不明

HP
不明

能力不明

データ該当無し

……パツと見た感じ、ゴリラに翼が生えた珍獣だな。

ドスンッ！ドスンッ！ドスンッ！ドスンッ！ドスンッ！ドスンッ！ドスンッ！ドスンッ！ドスンッ！ドスンッ！

……は？何匹降ってくる訳コイツら？

く暴虐魔獣・ディノガラウ×13く

……困まれた！？マジ、なんだよコイツら？

10

「ホンギヤー！」

甲高い鳴き声で、威嚇をしてくるゴリラもどき。13対1か…。勝てるか？

「そらとぶユパ様」

VS

「暴虐魔獣・デイノガラウ×13」

「EARTH・FANTASY第6研究室」

「デイノガラウを、倒し者がいる区域に送り込みました。」

「……そう、データ採集を忘れずにね♪さーて、貴方の力を見せて頂戴大和ちゃん。」

……まずいな、連戦だから、HPが回復されない。しかも、複数のモンスターと戦った事なんかほとんどないぞ。ナウシカ鎮魂歌も、二連続使用は不可能だし……。……ここは、昇華で押し切るか？

くそらとぶユパ様く

ディノガラウ7の攻撃！

魔壊のパンチ！

HIT！！

HP 60000000/23

「グハツ……！」

なっ！？動きが速い！しかも、攻撃力が圧倒的じゃないか……。あと一撃でも喰らったら……。昇華しかねえな。

くそらとぶユパ様く

能力発動！

ニート&END

昇華！

ステータス限界強化！

一定時間DAMAGE無効！

「うおらああああ……！」

自堕落剣を振りかざし、目の前にいるゴリラに向かって自堕落剣を振り下ろす！

くディノガラウ7く

そらとぶユパ様の攻撃！

聖天自墮落巨神剣！

自墮落の咆哮！

「やる気出た〜。」

切り下げ！

H I T ！ ！

H P 測定不能

はあ？なんだよ測定不能って！こうなったら、倒れるまで切り裂き
続けてやる。

「おおおおおおお！！」

くデイノガラウフ

そらとぶユパ様の攻撃！

聖天自墮落巨神剣！

自墮落の咆哮！

「無理だつて〜。」

乱れ切り！

乱れ突き！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

H I T ！ ！

「……ハアッ、ハアッ、これだけやれば！」

HP 測定不能

そ、そんな！昇華でステータスを限界強化してるんだぞ？なんで死なない？

くそらとぶユパ様く

ディノガラウ7の攻撃！

ディノガラウ2の攻撃！

ディノガラウ4の攻撃！

ディノガラウ10の攻撃！

ディノガラウ1の攻撃！

魔壊のパンチ！

魔壊のパンチ！

殴打！

エルボー！

魔壊光線！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

DAMAGE無効！

HP 60000000/23

あつ、危ね。昇華を使つてなかったら、今の袋たたきで死んでたな。くつそ、敗色濃厚つてやつか？……時間が無い。昇華の効力が切れたら、100%殺される！

「はあああああつ！」

くディノガラウ6く

そらとぶユパ様の攻撃！

左アッパー！

HIT！！

一匹のゴリラに接近して、姿勢を低くして胴体にアッパーカットを繰り出す！その衝撃で、ゴリラの体が浮き上がった。すかさず左腕に力を込めて、左腕一本でゴリラの体を頭上に持ち上げる。そして、右手の自堕落剣で、ゴリラの心臓を狙い、真下から突き上げる！

持ち上げた！

真下からの強襲！

CRITICAL HIT！！

HP 測定不能

なっ…、なんで倒れない？コイツら、かなりヤバイモンスターだな…。さーで、どうすれば勝てるかなあ？

乱入者出現！

＼A M A M I Y A＼

＼そらとぶユパ様＼

＼A M A M I Y A＼

V S

＼暴虐魔獣・デイノガラウ×13＼

「えっ、……結衣！？どうしてここに？」

天宮が、勝利の神弓・バを左腕に抱えながら、背中の翼を羽ばたかせ、華麗に降り立つ。……なんで？どうしてここに？

「……結衣、なんで俺が……」

「話は後！まずはコイツらを！！」

俺の言葉を遮るように、天宮が神弓・バを構えながら叫ぶ。確かに、天宮の言う通りだ。まずは、この状況を何とかしなければ！

「むっ！？ドクター！倒し者とディノガラウの間に、イレギュラーが！」

「……イレギュラー？乱入者が現れた？チッ、邪魔だなあ。不純物は、廃除しなければ！」

「丹蛭陀、この戦闘に介入しなさい！イレギュラーを取り除かねば……。」

「了解しました。」

「……ふふふ、この施設、EARTH・FANTASYの力をもつてすれば、EARTH・PERIOD内ならピンポイントでプレイヤーを転送出来るからね。頼んだわよ、丹蛭陀！」

「ディノガラウ！」

AMAMIYAの攻撃！

滅亡のアロー！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT！！

HIT!!

HP 測定不能

「ん？攻撃が効かないの！？」

「気をつける結衣！そいつらは、攻撃が全然効かないんだ！」

「へえ…、じゃあ、これはどうかな？」

（AMAMIYA）

特殊アイテム使用！

異次元の武器倉庫！

武器CHANGE!!

武器 超絶長刀・竜輝

……なんだ？あの武器。天宮の新武器なのか？……日本刀みたいな形だな。ただ、普通の刀より、リーチが三倍くらい長い！どうするつもりだ天宮？

「谷川君、心臓は狙ってみた？」

「駄目だった。奴らぴんぴんしてたぜ。」

「じゃあ、首を跳ね飛ばしてみた？」

……天宮、表現がストレート過ぎる！この小説は、R指定してないんだからな！後で設定しておかなければ…。

「……首はまだなのね？じゃあ、試す価値はあるみたいね。」

「ディノガラウ1」

AMAMIYAの攻撃！

蹴り！

HIT！！

HP 測定不能

天宮が、ゴリラもどきの腹におもいつき蹴りをいれる。すると、ゴリラもどきの姿勢が少し崩れ、若干前屈みになる。すかさず天宮は、ゴリラもどきの後ろ頭を両手で掴み、地面に向かって勢いよく押し込む！その反動で、ゴリラもどきは俯せになりながら、地面に倒れ込む形となる。そのまま右足でゴリラもどきの頭を地面に押さえ付け、首を狙って一直線に超絶長刀・竜輝を振り下ろす。

「ディノガラウ1」

AMAMIYAの攻撃！

姿勢を崩す！

足で押さえ付ける！

超絶長刀・竜輝！

斬殺！

CRITICAL HIT！！

即死！

ディノガラウ1戦闘不能！

天宮が刀を振り下ろした瞬間、大量の鮮血が舞い散り、ゴリラもどきの首が吹き飛ぶ！よっ、よし！一匹倒したぞ。あと12匹！

「……………おや？困りますねえ。これは、倒し者と暴虐魔獣の闘い！イレギュラー……………いや、ランク1位のAMAMIYAは引っ込んでいなさい。」

なっ、何だコイツ！？急に目の前にでてきやがった！一体何者だ！
？

「研究員丹蛭陀」

LV 100

HP 110 / 110

職業 ニート

武器 自堕落ソード

防具 コスプレセット

能力 滅亡ニート

戦績 19勝2敗4引き分け

プレイヤー RANK RANK外

うお！？なんか懐かしいステータスが！！プレイヤーランクがRANK外？そんなんで、俺や天宮と戦うつもりなのか？…………いや、ニートの能力を甘く見てはいけない。滅亡ニートは、LV差を跳ね返すくらいに、強力！

「ふふふ、はじめまして倒し者。そして、チャンピオン。私、EARTH・FANTASY研究職員の、丹蛭陀です。よろしく。」

「…………その研究員が、なんの用？あなた、EARTH・PERIODの管理・運営側でしょう？」

ドスの利いた声で、天宮が丹蛭陀とかいうやつを睨みつける。丹蛭陀か…、黒いスーツに赤いネクタイを着けて、なんかカッコイイな。背が高いし、真っ赤な髪。ホストか？いや、研究員とか言ってたな。

「ちょっとした実験を、ね」

「実験？」

「倒し者の力は、どれほど強力なのか、試しているだけの簡単な研究さ。まあ、邪魔が入ったから、私が潰しに来ただけだね。」

「……へー、邪魔って、ひょっとして私の事？」

「おもしろい事言ってますね。貴女以外誰がいるんです？」

「……やべえ、天宮めっちゃキレてる。眼光が異様だ……。まるで、獲物を狩る虎みたい……。」

「AMAMIYA」

VS

「研究員丹蛭陀」

「ウホウホウホ……！」

なんだ！？ゴリラもどき達が騒ぎ始めたぞ？

「……………負け人間が、黙ってる！」

「ディノガラウ2」

研究員丹蛭陀の攻撃！

握撃！

HIT！！

即死！

……ソツとした。能力も武器も使わず、基本攻撃のみで、あのゴリラもどきを一撃で葬った！左手で首を掴み、丹蛭陀が力を込めると、鈍い音と共に、ゴリラもどきの首が胴体から離れる。握力で、首を潰しやがった！何なんだ？あの丹蛭陀とかいう男。

「この化け物共、元々人間だったんです。」

は？なんだって？

「なっ、何を言っ……」

「EARTH・PERIOD内で死んだ……そうですね、魂と、でも言うのでしょうか？それは、何処に逝くと思います？」

……魂？は？死んだら？逝く？

「……ふっ、訳がわからない。……みたいな顔してますよ？」

……何なんだ？

「では、せつかなので教えてあげよう！私達の目的をね。」

……何なんだよコイツ！？

「その必要はない。女の勘が告げている！お前は、危険だってね。今、ここで死んでもらう！」

（研究員丹蛭陀）

AMAMIYAの攻撃！

超絶長刀・竜輝！

なつ、何だ！？天宮が急に苦しみだしたぞ！しかも、苦しみかたが尋常じゃない！

「おいっ、結衣に何をしたんだ!!」

「ん？気になります？ん…、そうですね、簡単に言えば、自我の崩壊。精神崩壊。人間の尊厳を廃除。まとめて言えば、彼女を廃人にしていきます。」

「ふつ、ふざけるなああああ！！！いますぐ止めろ！！」

「……断る。と言ったら？」

「……お前を、滅ぼす!!」

「ふん、じゃあ……こうしよう。あと残り11匹のディノガラウを全て倒して、さらに僕を倒せば、攻撃は止めるよ。ただし、彼女が崩壊するまで残り3分！さあ、倒し者よ！私達に君の力を見せてみる！」

「……殺す！」

くそらとぶユパ様く

VS

く研究員丹蛭陀く

く暴虐魔獣・ディノガラウ×11く

くつ、丹蛭陀を守るように、ゴリラもどき達が集まり、威嚇してくる。あと3分で、天宮の人格が崩壊する！？そんな事、絶対にさせねえ！

くディノガラウく

そらとぶユパ様の攻撃！

滅亡ニート！

ジブリ世界！

ラピユタ召喚！

ロボット発進！

インドラの矢！

人がゴミのようだ！

HIT！！

HIT!!

HIT!!

HIT!!

HIT!!

HIT!!

HIT!!

フィールド破壊効果!

デイノガラウ4・5・6・7・8・9が巻き込まれた!

デイノガラウ3・4・5・6・7・8・9

即死!

戦闘不能!

バルス!

目が、目があああゝ!

ラピユタ崩壊!

「へえ、凄いな。けど、あと2分10秒だよ?間に合うのかな?」

……あと、4匹と1人!

確実に倒して、ダメージを食らわない方法で行かないと、天宮を助ける前に俺が負けてしまう!残りHP23で、確実にコイツらを殲滅する!と、なるとやはりアノ能力しかないか…。

「そらとぶユパ様」

能力発動!

ニート&END!

虐殺!

START!!

ルドウン竜の翼強制使用!

速攻あるのみ!残り4匹、最速で全匹仕留めてやる!

くディノガラウ10く

そらとぶユパ様の攻撃！

聖天自堕落巨神剣！

虐殺・惨殺・殺害！

死の三連コンボ！

CRITICALHIT！！

CRITICALHIT！！

CRITICALHIT！！

即死！

戦闘不能！

よし、次だ！

くそらとぶユパ様く

ディノガラウ12の攻撃！

ラリアット！

MISS！！

そらとぶユパ様は回避した！

反撃！

超速殺！

生きる者屍となりし！

CRITICALHIT！！

即死！

戦闘不能！

「……1分40秒。なかなかやるじゃない？あと二匹だよ？まあ、私は絶対に倒せないけどね。」

くそらとぶユパ様く

アイテム使用！

ウゴケール+α！

移動速度アップ！

攻撃速度アップ！

回避率アップ！

反応速度アップ！

ディノガラウ11の攻撃！

魔壊光線！

M I S S ！

そらとぶユパ様は回避した！

………遅い！

反撃！

瞬雷！

雷神の如し！

テンションMAX！！

ボルテージ最高潮！

雷猛斬殺！

C R I T I C A L H I T ！！

雷の追撃！

確定150000DAMAGE！！

即死！

戦闘不能！

「ラストオオオ！！」

くディノガラウ13く

そらとぶユパ様の攻撃！

虐殺の効果が切れた！

ステータスが元に戻った！

……なにっ！？こんな肝心な時に、虐殺の効果が切れた！？

「ハハハハッ、勝負あつたな。あと1分で……ん？何をしているんだ！？」

……最後の、手段だ。もう、これに賭けるしか方法がない！

「そらとぶユパ様」

最終奥義発動！

ニート・THE・END！！

ニートに秘められし力！

能力制限解除！

滅亡ニート！

ユパ様World！！

でっかいニート変化！

翼を背負いし巨人！

HP 10000 / 10000

「ギャルアアアアアアアアアアアアアアアア！！！」

「そらとぶユパ様」

ディノガラウ13の攻撃！

魔壊光線！

HIT！！

HP 10000 / 10000

「…………馬鹿な、0 DAMAGEだと！？」

HP	78500041354/78500041354
職業	先見の狩人
武器	巨大砲ジェノサイド
防具	神秘のオーラ
能力	先見
プレイヤー RANK	3位
戦績	510043勝0敗2引き分け

馬鹿な……、こんな事が！？プレイヤーRANKが3位だつて！？
しかも、能力の先見つて、ああとかいうジジイと同じ能力だった
ような…。

「ウオギャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア
アアアアアア！！！」

く 研究員丹蛭陀く

そらとぶコパ様の攻撃！
連続踏み付け！

先見だろうが何だろうが、速くコイツを倒して、天宮を助けないと
！なりふりかまわずやりに行く！

「ちよろいちよろい！やる気ある？」

MISS！！

MISS！！

MISS！！

MISS！！

MISS！！

研究員丹蛭陀は回避した！

くそつ、ちょこまかと器用に避けやがる！ならば、これならどうだ
！？

く 研究員丹蛭陀く

そらとぶユパ様の攻撃！

勝利への翼！

飛翔！

…………死ねえ！！！！

「ジャアガオアアアアアアアアアアアアアアア！！！」

二ト口内砲！

世界を滅ぼす巨人！

T A R G E T ロックオン！

発射！

M I S S ！！

研究員丹蛭陀は回避した！フィールド半壊！

何だと！？今の攻撃を避けた？どうやって！？くっそ、思った以上に厄介な能力だな。先見…、相手の行動が先にわかる、読める能力か…。一種の未来予知だな。どうやってコイツを倒す？

「…………時間だ。残念だったね」彼女、精神が逝ったみたいだよ？」

なにっ！？天宮！！！！

丹蛭陀の言葉を聞き、咄嗟に天宮のいる方向に振り返る。天宮は、ぐったりと倒れ込み、ぴくりとも動かない。……嘘だろ？間に合わなかったのか？

「どーこ見てるんですか？よそ見はいけないよ？よそ見は。」

なに！？コイツ、いつの間に空を飛んだんだ？顔のすぐ真横に、巨大なバズーカを構えて笑ってやがる！

「いくら40メートル近い巨人でも、首が吹っ飛べば死ぬかな？」

「そらとぶユパ様」

研究員丹蛭陀

能力発動！

白銀の死翼！

飛翔！

研究員丹蛭陀の攻撃！

最終奥義発動！

大量虐殺・ジエノサイドキャノン！

弾装填完了！

発射！

究極！フルバースト！

一撃目！

HIT！！

二撃目！

HIT！！

三撃目！

HIT！！

四撃目！

HIT！！

追加DAMAGE！！

確定9000000DAMAGE！！

そらとぶユパ様

特殊能力発動！

能力無効化！

確定DAMAGE無効！

HP 10000/6000

MISS!!

研究員丹蛭陀は回避した！

ことごとく攻撃が回避される！？先見って、実はかなり強いのか？

「……………弱いなあ。君、本当にあのアダムを倒したのかい？弱すぎて欠伸が出そうだよ……………ふぁゝ…。あ、本当にでた。」

ふざけやがって！余裕でいられるのも、今のうちだ！俺はアダムを倒した男、そらとぶユパ様だぞ？このまま終われるか！！

駄目だ、攻撃しなければ、奴の思っ毒だ…。結局、DAMAGEは削られてしまう。くっそおお！！どうすればいいんだ…。

「……………ふっ、チェックメイト。君、詰んだね。」

……………。

「さて、ここで君に相談があります。」

……………相談？

「彼女、心配じゃないの？動かないし♪」

……………天宮。

「君が、EARTH・FANTASY研究所の、実験台になれば、彼女を助けてあげよう。」

実験台だって！？なんの実験だ？

「グルルルル……………」

「うはっ、そんな睨むなって♪」

……………待てよ？あいつ、今めっちゃ油断してないか？試しに殴ってみるか。えい、バキッ！とな。

く 研究員丹蛭陀く

そらとぶユパ様の攻撃！

右ストレート！

HIT!!

HP 0

戦闘不能!

WIN そらとぶユパ様

あつ、勝った。

見事にパンチが命中して、地面にはいつくばる丹蛭陀。コイツ、強いけど阿呆だな。

「くつ、この展開は、先見でも予想出来なかった…。」

成る程。いくら先見でも、必ず回避出来る訳じゃなさそうだ。あくまで、攻撃行動が先にわかるだけなのね。

「まあ、いい…。倒し者の戦闘データを入手できたし、ランキング1位のAMAMIYAは、死んだも同然! ……計画に支障はない。ふつ、さらばだ!」

捨て台詞を残し、ログアウトした丹蛭陀。 ……気のせいかな? とつてもヤバイ予感がするんだけど。とりあえず変化を解除して、急いで天宮に駆け寄る。倒れている天宮を抱き抱え、必死に呼び掛ける。

「おい、結衣! 大丈夫か!? 返事しろ! ……! ?」

ERROR!!

ERROR!!

ERROR!!

ERROR!!

ERROR!!

現実世界の肉体に、異常が見られます。

ログアウトする事を、強くオススメします。

73

「ふう、流石倒し者！この私が負けるなんて……」

「あつはははははは！！！何コレ？ハンパないわ。あははははは！」

んだ？

「ドクター？」

「ああ、丹蛭陀。ちょっと見てくれる？大和ちゃんの戦闘データな
んだけど。」

…倒し者のデータか。パソコンに映し出されたデータを見て、私は
ア然としてしまった。何故なら…

「アダムの戦闘力を、遙かに超えていますね。約20倍！？信じられ
ない……。」

「でしょ？これだけのエネルギーがあれば、アレを開放出来るかし
ら？。」

「……倒し者と、さらに強力なエネルギーが複数体必要かと。まあ、
ランキング上位者をかき集めれば、アレの開放は何とかなるでしょ
う。」

「……あつ！いいこと思いついた。この大和ちゃんの戦闘データ
を、他のプレイヤーにインストールすれば、そらとぶユパ様二号が
できるとおもわない？」

「……クツクツク、流石ドクター。洒落になりませんね。あんなの
が二人に？世界が破滅しますよ。」

「いいじゃない！面白そうだし。早速取り掛かりましょう。」

……やれやれ、狂科学者の助手はツライな。発想がありえないで

しよ？そらとぶユパ様二号とか……。……。けど、面白そうなのは確かだな。」

「松森直秀の家」

「あー、大和は彼女ができて付き合い悪いし、暇だぜ。」

ピリリリリリリリ！

あん？メール？部活仲間のアドレスだ。なんだろう？

22時14分・新着メール

おい、直秀！

ヤバイゲームが、近所のネットカフェにあるんだって！

なんか、ゲームの世界に行き来できる、ハイテクゲームらしい……。

明日行ってみないか？

……明日、か。ちょうど予定ないから、行ってみるかな。

返信

了解！

明日は暇だから、行ってみようか。どうせ練習ないから、学校から直で行こうぜ。

……よし、返信つと。どんなゲームなんだろう？まあ、行けばわかるか。

この時、松森直秀は地獄への扉を開いてしまった。EARTH・PERIODのプレイが、人生を大きく変える事になる…。

STAGE 1 END

第一部が終わりました。

え？一部終わるの早くない？…と、感じる方もいるかもしれませんがね。実際、一部は序章みたいな物なんです。これから書き上げる、STAGE2以降が本番？なんです。

さて、この場を借りて、少し関係のない話をしたいと思います。なにしろ、文字数が200以上ないので、投稿できない訳なのです。

（笑）

今作、ネットカフェ2では、前作ネットカフェで出来なかった&書けなかった事をやりたいと思い、執筆した訳です。…さつきから、く訳です。が多いなあ。作者は文才がないので許してねん♪

前作では、ヒロイン・天宮の過去が明らかになりましたが、主人公・谷川大和の素性が不明でした。谷川大和の過去が書きたかったから、2を執筆した。…と、言っても過言ではありません。だから、冒頭でいきなり過去が明らかになるんです。

前作、ネットカフェ1では、ニート強すぎ！…と、言う感想・意見が多数寄せられました。あつ、コメント送ってくれた方、感謝です。なので、今作はニートを苦しめてみよう！と、いう試みが試された訳なのです。13対1の勝負や、先見など。ぶっちゃけ、主人公がぶつちぎりで強いと、おもしろくないでしょ？なので、今回はニートをどん底まで苦しめます。どうぞご期待下さい。（笑）

さて、200文字を超えましたが、もう少しお付き合い下さい。

私の執筆している小説は、三つのテーマを目指して書いています。

- 1、書いていて楽しい
- 2、ジブリを目指して
- 3、普通ではないヒロイン

です。1は説明不要ですね。書いていて楽しい小説は、読んでいても、楽しくなるものなんです。これを心情にして書いてます。

2も説明不要ですね。省きます。

問題の3。これ、どういう意味？と、思った方がいるはずです。言葉の通りです。普通なんて、おもしろくない。ちよつとヤバイくらいの、刺激のある人間がいた場合が、物語がおもしろくなるんです。それが、私の作品の場合、ヒロインに当て嵌まる訳ですね。最強の天宮・別の作品、廃人のヒロイン、怪物清水美砂。など、どれも普通ではありません。そういう訳なんです。今、流行りのツンデレなんかも、これと同じではないのでしょうか？……え？違う？

長くなりましたが、現在連載中のネットカフェ・in・サバイバル2を、今後とも応援よろしくお願いします。

PR!!

ゲーム廃人・THE・レジェンドもよろしく！

また、未完の処女作品、人間の咎も、ぼちぼち更新していきます。やつと構想が、最後まで練り終ったんです！こちらの作品は、一言で表すと、「異常」な過激作品となります。ネットカフェとは、ひと味違った面白さ？かもしれません。なにしろ、主人公が終わります。彼の性格を捻曲げるのに、約半年かかりました。

では、次話から二部！

原因不明の脳死。それが、天宮に起きた症状……。今の天宮は、動かないし喋らない。それに、何も食べない。腕に痛々しく刺さっている点滴だけで、命を繋いでいる状態だ。はつきり言ってしまうえば、植物人間。

……天宮、君を守れなかった。ごめん、敵は必ず撃つよ。……たとえ、命にかえても！！！！

STAGE 2 START!!

↓学校・3 - 2 教室↓

「今日の欠席は……、天宮と谷川だな。では、授業を始める。」

……あいつら、また休みなのか？大和がいないと、学校生活がつまらないな……。部活も引退したし、マジやることねえ。刺激がないっつーか、退屈？就職の内定も決まったし、ホントに毎日がくだらねい。

「コラ！松森。おま……」

「聞いてませ〜ん。」

「やる気あるの……」

「ありませ〜ん。」

くだらねえ。こんな退屈な毎日で、やる気が出る人間は、頭がおかしいに決まってる。あゝあ、めんどくせえ。サボるか？

「先生大変です！子供が産まれるから早退します。」

「なななっ、馬鹿言ってんな松森！」

席を立ち上がり、かばんを手にして、帰り支度を始める。すると、俺と同じように、席を立って帰り支度を始める人間が一人いた。

「実は、俺の母ちゃんの浮気相手が、直秀なんです。つまり、直秀の子供と、俺の弟が、いつぺんに出来る訳ですよ。」

「お前ら、ふざけるな！」

はらたとしお
原田敏夫。バスケ部の仲間で、大和の次に仲がいい。昨日、メールを寄越したのも、コイツ。

「「では、そういう事で。」」

「まっ、待て！どういう事だ！？おい、待たんか！」

教師の制止を振り切り、二人揃って教室を後にする。

「ちょっといいか敏夫？」

「なんだよ？」

「便乗してきたのはいいが、いつ俺がお前の母ちゃんとやったんだ

よ！」

「軽いアメリカンジョークじゃないか。そう怒るなって。」

「やだ。怒る！」

「ほづ…、私と戦うつもりかね？」

「大和じゃあるまいし、ムスカのモノマネはやめる。しかも、似てないし……………」

「…………谷川か。アイツ、学校休み始めてもう二週間だぜ？何してる訳？」

「さあ？家にもいないみたいだし、天宮の家に同居でもしてるんじゃないか？」

「その天宮だけどさ、噂じゃ入院してるらしいぜ。」

「は？なんで？」

「俺が知るかよ。」

…………入院、か。あいつら、何か事件・事故に巻き込まれたのか？大和の携帯も繋がらないし、一体どこで何をしてるんだ？

「…………で、昨日のメールだけど、なんていうゲームなんだ？」

「あ？確か、EARTH・PERIODとかなんとか。」

EARTH・PERIOD？確か、結構前に総理が会見でアダムとEARTH・PERIODについて話してたような…。結局、アダムとかいう奴は倒されたらしいけど、一体誰が倒したんだろ？なにしろ、富士山をひっくり返すような化け物だからな。そいつを倒したとなると、アダム以上の化け物ってことか。……………本当に人間か？

「そのゲームをプレイする場所が、近所のネットカフェにあるのか？」

「ああ、ネットカフェ・爆遊会館に、そのゲーム専用の施設があるらしい。」

スゲーな、施設？たかがゲームに、施設！？なんだよそれ？まあ、行けばわかるか。

「ふん…。じゃ、早速行ってみるか！」

〔松森直秀〕

HP 100/100

学校をサボった！

テンションアップ！

煌めくような輝きを放つ、柔らかい肌に胸。裏表のない、癒される笑顔に、天使のような甘い声。……………天宮。

「オヌシ、人の話を聞いてるか？今、完全に上の空じゃったぞ？」

「……………ん？ああ、何だっけ？」

〈開拓区域・第990ナバル森林深部〉

俺は今、情報屋・あああのお店を訪ねて、第990ナバル森林にいる。

「もう一度言うぞ？現状では、チャンピオンの状態はかなり危険だ。」

「……………まあ、見ればわかる。」

「問題は、かなり強烈な能力で、やられた事じゃの。戦闘が終わっても、治らないということは、もはやその相手を倒すしかあるまい。その方法でしか、チャンピオンは救えんだろうな。」

……………丹蛭陀を、殺すか。かなり、苦勞はするだろうな。ランクも3位だし。ん？何故、あああの所にいるかって？以前、天宮がどうしても困った事があつたら、ここにくれば何とかなるかも……………。と、言ってたのを思い出した訳ですよ。

「俺には信じられねーなあ。チャンピオンが負けたなんて、想像が

でん……。」

狙撃ライフルの手入れをしながら、脇に座っていた、ガルデ・ゾーラが、口を挟む。さっき知ったんだけど、あああって、ガルデ・ゾーラの師匠だったのね。つーか、ガルデ・ゾーラは、雰囲気アウトローのような恐い印象だ。ちなみに、ドイツ人。

「相手はどんな奴じゃった？」

「ランク3位の、研究員丹蛭陀。職業をチェンジしながら戦うんだ。」

すると、あああのじいさんが眉に皺を寄せる。なんだ？どうしたじいさん？

「……………丹蛭陀か。いろいろと黒い噂を聞くのう。あやつは、運営・管理側の人間じゃろ？」

「ああ。あいつ、自分で言ってたな。」

「……………知っておるか？今、運営側の裏では、抗争が起きておる。」

……………は？なんだそれ？意味わからん。

「意味わからんか？まあ、聞け。」

はい、わかりました。

「アダムがいなくなった今、アダムの楽園は誰もいない、支配者がいない状態じゃ。その楽園を、新たに開拓し、新たな王になろうと

企む派閥と、EARTH・PERIODの転送装置を奪い、全てを手中に収めようとする派閥。そして、醜い人間を全て消し去り、この世界の全てを虚無に帰そうと企む派閥。この3つの派閥が争い合っているのじゃ。」

………???

話についていけないんですけど。

「そして、その全ての企みを実現できるEARTH・PERIODの核ともいえるエネルギーが、裏EARTH・PERIODに嚴重に封印されているのじゃ。」

「裏？たしか、アダムを倒した時に、特典の一つが、裏への挑戦権だったような…。」

「それじゃ！あの時、オヌシの選択は、全員蘇生だったが、本当は裏を選び、オヌシが新たな世界の統括者になればよかったのじゃ。」

「待て、そのエネルギーは、何の為に封印されたんだ？」

「本来、EARTH・PERIODは、別世界に存在するアダムを倒す為に作られた物。当然、規模が大きいだけに、それ相応の力、エネルギーが必要じゃ。だが、アダムを倒した今、そのエネルギーは強力過ぎる…。それを自分の都合のいいように利用しようと、運営側は考えているのじゃろうな。もちろん、その考えを見越して、EARTH・PERIOD最高責任者が大規模アップデートとともに、エネルギーを裏へと封印したのだが、先日何者かによって責任者が現実世界で暗殺された。」

………おいおい、台詞なげーよじいさん。しかも、説明っぽくて、

頭に内容が入ってこない。

「裏の開放は、アダムに匹敵する程の力でないと、扉は開かないようになっている。だから、オヌシの所に丹蛭陀が現れたのじやろ…。」

裏・封印・エネルギー、かあ。ようは、その巨大な力を手に入れた奴が、新たな世界を牛耳る訳だ…。

「現実世界への影響は？」

「わからん。エネルギーを手にした人間次第じやろうな。」

なんか、第二部になった途端、話が急展開過ぎやしねーか？ヤバヤバな気配がムンムンだねこりゃ…。

「オヌシは、つねに狙われていると言っても、過言ではないぞ？現実世界でも、EARTH・PERIOD内でも、細心の注意を払え！」

「あ？なんで？」

「馬鹿かオメー！裏へ行く為には、アダムを倒したお前じゃないと、裏への扉を開ける事はほぼ不可能。だから、運営側に狙われているぞって言うてんだよ。」

マジ？超おっかないんですけど。面倒事に巻き込まれるのはごめんだね。俺は、ただたんに丹蛭陀を完全に倒し、天宮を救えばなんでもいいんだ…。つか、ガルデ・ゾーラって、意外とハスキーな声でしゃべるのね。

「……………世界の統括者、ねえ…。」

ある意味、アダムは重要な存在だったんだなあ。アダムがいれば、こんな事にはならなかったんだし、ぶっちゃけ、倒す前よりヤバイ状況じゃね？あゝあ、人間ってヤツは……。

（現実世界、ネットカフェ・爆遊会館）

「いらっしやいませ。二名様ですか？当店の会員カードはお持ちですか？」

「あつ、いや、持ってないです。」

噂のネットカフェに来たけど、別に普通のカフェじゃないか？どこにその施設があるんだろうか？

「あの、EARTH・PERIODとかいうゲームをしたいんですけど。」

すると、受付の店員が、またかよ……。みたいな表情を浮かべ、俺と原田を交互に見回す。

「わかりました。……が、EARTH・PERIODをゲームと呼んでる時点で、お客様は勘違いしています。そんな心構えですと、開幕5秒で死にますよ?」

は? 5秒? 死ぬ? 意味わかんね……。ナメてんのかこの店員?

「死ぬって、ゲームの事?」

原田がマヌケな顔で、店員に質問している。

「いえいえ、現実世界で。」

……気のせいかな? ヤバイ気配を感じるのは、俺だけなんだろうか!?

「……………なあ、敏夫。ヤバ」

「おもしろそー!! なにそれ? どういう事? やるから早く案内してくれよ!」

……はあ。まっ、いいか。どうせ一日中ひまだしな。

〈 開拓区域・第990ナバル森林〉

「EARTH・PERIOD内で、死んだらどうなるか？」

「ああ、丹蛭陀の野郎が、意味深な感じで呟いていたんだ。あと、俺を襲ったモンスターが、もともと人間だったとか……。」

すると、またまた眉間に皺を寄せるああ。そんなにいっぱい皺があるのに、これ以上皺を増やしてどうするつもりなんだろう？文字通り、顔面皺くちなああ。

「成る程。……ヤツめ、廃棄データを再利用して、新たにモンスターを作り上げたな……。」

「再利用？リサイクルか！？」

「EARTH・PERIOD内で死んだプレイヤーデータは、運営側によって破棄されるのじゃ。その破棄されたデータと、モンスターデータを融合させて、新たなモンスターを作ら上げたのだろうな。もともと人間だったと言う意味は、そういう事じゃろう。」

……ふーん、もはや何でもありだな。

「丹蛭陀は、運営側の人間なんだろ？奴は、どの派閥に属しているわけ？」

「全てを無。ようは、世界をデリート派じゃな。」

「あとは…、先見の能力について知りたい。あんたの能力も先見だろ？教えてくれよ。」

「……………弱点か。二つあるぞい。」

「おお！二つも！？教えてくれじいさん。」

「まず一つ。フィールド全範囲に及ぶ、超火力で逃げ場を無くす。いくら先に攻撃がわかって、これなら避けられん。」

あつ、だからアダム戦の時、殺戮ビームをああは避けられなかったのか。成る程ね、納得。

「二つめ。相手の予知より早く行動する。ようは、限界を超えたスピードで動けば、楽勝じゃ。」

……………無理じゃね？

「戦闘結果の処理速度が追い付かないくらい速く動けば、まあ問題ないだろう。しかし、これが出るのは、現在チャンピオン一人だけ。しかも、今は入院中で、ログインできない…。実質、これが出る人間は今現在ではない事に…。」

……………超火力で、消し去る方向でがんばろう。うん、それなら何とかなりそう♪

〔EARTH・PERIOD、WORLD RANKING〕

ランク1位

AMAMIYA

ランク2位

- ??? -

ランク3位

研究員丹蛭陀

ランク4位

RICHMENS

ランク5位

- ??? -

ランク6位

ε & ε

ランク7位

男爵ジャガ芋

ランク8位

Limit

ランク9位

マグニチュード999

ランク10位

- ??? -

「……………何これ？」

あああから受け取った紙には、EARTH・PERIODのランキング上位者が記載されていた。

「見ればわかるじゃろ？ EARTH・PERIOD内最強の10傑じゃ。」

「この????は？」

「ランク統一戦以外、全く姿を見せない謎だらけのプレイヤーじゃ。このワシでも、情報が掴めん。」

「ふーん…、これを俺に見せた意味は？」

「運営側も必死になって、強者を集めている。すでに、ランキング上位者の数名が、運営側に付いていても不思議ではない。それと、近々ランク統一戦が行われるからの。」

「ランク統一戦？」

「知らんのか？ EARTH・PERIODの最大イベントの一つ、ランク統一戦。ランダムにプレイヤーが集められ、対戦相手に勝ったら、相手のランクより上のランクになれるのじゃ。期間中は、地下闘技区域のみログイン可能。つまり、嫌でも闘う羽目になる。運営側は、これを利用してオヌシを狙ってくるかもしれん…。」

「ランク統一戦かあ…。上手く行けば、運営側の尻尾を掴むチャンスでもあるな。」

「ところで、オヌシ日常生活は大丈夫かう？」

「は？」

「もう現実世界では、二週間以上経っているぞ？ ワシは暇な老人だ

し、ガルデ・ゾーラはガルデ財団の御曹子だから遊び歩いていても問題ないが…。」

ナヌー！？二週間？ヤッベー…、学校サボりまくりじゃん！つか、御曹子！？そっちの方がびっくりなんだが…。まあ、サボったもんはしょうがない。

「問題ナツシング！」

くネットカフェ・爆遊会館く

案内された地下には、薄暗い部屋に、まるで拷問器具のような装置が、パソコンに取り付けられている。なんか不気味だ…。

「ウヒョー！マジ興奮してきた！」

……お気楽な思考回路の原田。少なくとも、これを見て興奮する奴は頭がおかしいに違いない。店員のいう通り、パソコンを起動させ、EARTH・PERIODのアイコンをクリックする。

EARTH・PERIOD

MENU

GAMESTART

OPTION

END

…… GAME START を選べばいいのか？

EARTH・PERIOD

GAME START

新規キャラ作成／転送

OPTION

END

…… ん？名前か。まあ、お決まりといえ、お決まりだな。

CHARACTER NAME

鬼殺し直秀

…… 本名を入れるって、結構抵抗があるな。別な名前にしよう。

きのこ派とたけのこ派

…… うん、チョコ菓子のアレ。みんなはどっち派かナ？

ミナミの貧王

金の金○術師

ナウシカ

Now 鹿

AKB4800

カレーライス8連休

…… 決まらねえ。

あ！閃いた。コレにしよう。

CHARACTER NAME

地を這うナウシカ

次は、職業か……。ンなもん、ぱつと見のインパクトで決める！

地を這うナウシカ

職業 風呂屋の番台さん

あ？武器選択？どれ…

武器選択

・番台タオル

・のぞき見レンズ

・フルーツ牛乳ソード

・熱湯バズーカ

…… まともな名前の武器が、一つもねえ。

地を這うナウシカ

職業 風呂屋の番台さん

武器 フルーツ牛乳ソード

防具まで貰えるのか！？太っ腹なゲームだな。

防具選択

・全裸

・裸・タオル

・絶妙・タオル

・貸し出しタオル

・タオル

.....タオルしかねえ。

地を這うナウシカ

職業 風呂屋の番台さん

武器 フルーツ牛乳ソード

防具 絶妙・タオル

HPと能力は、ランダムで決められるらしい…。

地を這うナウシカ

LV 1

HP 2 / 2

職業 風呂屋の番台さん

武器 フルーツ牛乳ソード

防具 絶妙・タオル

能力 地獄のサウナ責め

プレイヤー RANK RANK外

戦績 0勝0敗0引き分け

これで、転送を押せばいいのか？どれ、ポチツとな。

「うおおおおお!？」

転送ボタンを押した途端、俺の意識は吹っ飛んだ。気が付くと、まるでゲームのRPGのような町並みが、視界いっぱい広がっている。なんだ？何処だよここ！？確か、ネットカフェにいたはずだろ？

「……………ようこそ、地獄の一丁目へ。」

……………は？誰コイツ？

赤い髪の毛に、整った顔立ち。透き通るような裸に、ちよっぴり高い鼻。真っ黒なスーツを身に纏い、まるでホストのような風貌だ。あ…、わかった！コイツが、チュートリアルを教えてくれる、案内役だな。

「……………ん？貴方の名前、おもしろいですね。実にイイ！倒し者が、意識しそうな名前だ。」

何言ってるのコイツ？プレイヤーネームが、研究員丹蛭陀？ダッセー名前だなあ。

「……………了解！ふふっ、ドクターからの指示が出た♪今から、貴方のある場所に連行します。さあ、逝こうか!」

いきなり、俺の腕を掴んでくる研究員丹蛭陀。すると、ぬめりとした感触が、嫌らしく伝わってくる。原因を探るべく、視線を丹蛭陀の腕に向けると、それは、大量の血液だった。よく見てみると、丹蛭陀の身体は、全身血まみれ。黒いスーツを着ているものだから、

ぱつと見ではわからなかった！

「ああ！？おい、あんた……………」

そこまで言いかけて、気が付いた。俺と丹蛭陀の周囲には、数え切れない程の死体が、そこらじゅうに転がっていた。……………なんだよ？何が起きてるんだ！？

「ん？あつ、コレですか？なーに、少し暴れただけです。ストレス解消と実験のためにね♪」

〈初心者区域・全プレイヤー確認〉

・ 研究員丹蛭陀

・ 地を這うナウシカ

全2名。他、1463名死亡。

その状況は、もはや惨劇としか、言いようがなかった。コイツは、逆らえばお前もこうなる運命だ。と、言わんばかりに俺を睨みつけてくる。なんだこれ？一体、何がどうなってるんだ！？俺は、丹蛭陀の指示に従うしかなかった…。

〈 開拓区域・第990ナバル森林〉

「じゃあなじいさん！また何かあつたら頼むわ。」

一通り用事は足したので、とりあえず、あああの店から出る事にした。さーて、そろそろログアウトしようかな？

なんて、思っていた矢先に、ソイツは突然現れた。音もなく、いきなり俺の目の前に姿を現したプレイヤー。右腕には、透き通るような刀を持ち、左腕には小銃を持っている。Ｔシャツにジーンズを着こなし、この世界ではかなりの軽装といえる。

「……………貴方が、アダムを倒した勇者？」

……………男？女？見分けがつかない程に、美しい人間だ。声も中途半端に高いし、マジでどっちだろう？

「そうだけど、お前は誰だ？どこから現れた！？」

「私？私は…、高燃費少女・ハジイ！よろしく、倒し者…。」

高燃費？低燃費じゃなくて？しかも、ハイジじゃなくてハジイなのか？うむ、どうやら日本人のようだ。年齢も俺とそんなにかわらないような…？十七・八ってところか？

「なんか用？俺、そろそろログアウトするつもりだったから、用事があるなら手短に話して……………」

「倒して欲しいプレイヤーがいるんです！」

いきなり、土下座して叫ぶ高燃費少女。はあ？倒して欲しい？しょーがねえなあ……………。

「やだ。」

「おつ、お願いします！そこをどうにか…」

「無理。」

「なつ、なんでですか？ちよつとくらい…」

「駄目。」

「か弱い女の子のお願いデスヨ？」

「不可能。」

すると、泣きながらお願いしますと、俺に擦り寄りながら懇願する高燃費。

「あのな、よく聞け？お前みたいな奴の言う事聞いてたら、キリがねーんだよ。それに、俺にはそんな義理もねーし、冷たいようだけど、諦めな。もしくは、他の奴に頼め。別に、俺じゃなくてもいいだろ？」

「……………そう、わかったわ。タダでとは言わないわ。」

「いや、タダでとかそういう問題じゃ…。」

「ふん！貴方、私の身体目当てなんでしょ？嫌らしい…」

……………ヤバイ、コイツ、かわいい顔して思考回路がイカレてやがる。とんでもないのに絡まれたなあ…。

「あのな、俺には彼女だっているし…」

「酷い！私の心をモテ遊んだのね！？崇ってやる……………末代まで崇って呪い殺してやる！」

……………だれか助けて。この状況を何とかしてくれ。

(…………… 祟るって、まともな人間の言う事じゃねーぞ？ヤバイ、コイツは頭がおかしい人間だな……。さっさとログアウトしよう。)

「…………… 急いでるから、これで失礼！」

直ぐさまログアウトのボタンを押して、逃げるようにログアウトする。

「コラアアアア！！逃げるな。× □！」

絶叫しながら、俺を引き止めようとする高燃費。最後の言葉は、あまりに興奮していたのか、舌が上手く回らず言葉として聞き取るのは不可能だった。あー…、怖かった。なんだったのあいつ？

「…………… 無視された。逃げられた。嫌われた。許さない。怨んでやる。呪ってやる。祟ってやる。殺してやる。ぶつぶつ……………」

（翌日）

…………… おかしい。いつもなら、直秀が家に迎えに来るのに、今日は来ないぞ？二週間も留守にしたからか？まあ、学校に行けば会えるだろ…。

なんて思いながら、かばんに荷物を積んでいた時だった。

……あの、さ。キレイでいいかな？

「デメエ、一体どういいうつもりだ直秀！！」

勢いよく玄関を開けると、そこには……。

「あれ？誰もいない??」

…気味悪いな。朝からなんなんだ？……幽霊じゃないよな？まだ朝の7時20分だぜ？幽霊が出現する時間帯じゃねーよな？いや、そもそも、幽霊が出現する時間なんてあるのか？まあ、なんでもいいや。学校行こう。

玄関のドアを閉めようとしたその時！ドアの閉まる寸前に、何者かの足が、突如隙間に挟み込まれ、ドアが閉められない。よく、セー
ルスマンがやるアレだね。

「……………は？」

なんだこの足？邪魔くさいな…。踏んじゃえ！えい、ムギユツとな。

「いったーい！」

あ？直秀じゃないぞ？つーか、この声どこかで聞いた事があるような…？まあ、どうでもいいや。踏んだら、足を引っ込めてくれたようだし、今の内にドアを閉めよう。

「ちよっとおおおおおお、痛いじゃない！！」

ドアの向こうで、何者かが絶叫している。タチの悪いイタズラしやがって…。ムスカと同じ運命を辿らせてやる！

「開けろおおおお！」

[illegible]

あー…、実にやかましい。非常用のウェルダーを玄関に設置して、巨大な投光機を外に向かつてセツトする。ついでに、溶接も準備して、迎撃体制は整った。変質者め、思い知れ！

「開けやがれえええー！！！！」

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525

よし、ウェルダ―始動！

ブイーン！

「今開けますよ。」

力チャリ…。

玄關の鍵を開けた途端、変質者が、勢いよく我が家に侵入してくる。瞬間、アーク溶接の光と、投光機の強烈な光が、変質者に襲い掛かる。

「ぎゃあ あああああ！？目が、目があああああああ。」

ふははは、谷川大和特製、人工バルスだ！変質者が怯んだ隙に、みぞおちにおもいき蹴りを入れる。さて、ふん縛って、警察に突き出そう。

「うつつ…、酷いわ…。」

ん？女の子！？しかも、けっこうかわいいな。つか、この制服は、超有名なお嬢様学校の、聖光女学館の制服じゃないか！

「うつつ…、祟ってやる…。」

…………… あっ！思い出した。

「…………… お前、高燃費少女・ハジイだろ？」

「呪ってやる…。殺してやる…。」

なんだかイラッ！としたので、もう一回蹴ってやろうかな？

「質問に答えろ。お前、高燃費少女・ハジイだろ？なんで俺の住所を知っている？」

「…………… そんなの簡単。今、EARTH・PERIODで一番の有名な、アダムを倒し勇者で聞きまわれれば、住所・氏名くらい簡単に入手できる。」

…俺の個人情報だだ漏れじゃんか。

「あのさ、なんでこんな事する訳？俺に怨みでもあるの？」

「……………今まで、私の思い通りにならなかった事なんてなかった。なのに、あなたときたら！私の頼み事を拒否するし、恨めしい限りだわ！」

……………コイツ、超わがままお嬢様じゃねーか。多分、今まで親の権力と財力で、やりたい放題やってきたんだろうな。

「嫌だ。お前の言う事なんて、聞きたくないね。だいたい、俺以外のプレイヤーでもいいじゃんか。どうして俺なんだ？」

「あなたは、アダムを倒した勇者。倒せないプレイヤーなんて、無きに等しいでしょ？だから……………」

「そいつは誤解だ。俺でも、倒せないプレイヤーはいる。」

「えええ！？そんな、困るわよ！あなたじゃないと、あの女は倒せないわ！」

……………俺、いろんな意味でモテ始めたぞ？うれしくね。つーか、高燃費の相手をしてたら、学校遅刻しちゃった。しよがねえ、明日から行けばいいか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9723w/>

ネットカフェ・in・サバイバル2

2011年11月4日13時08分発行